

元御家人節御由緒有之蒙
仰御用相勤張家所服部家器系

初部

元御家人筋并帝由縁有之宗仰
御方同之御方家
服部之御方家

如左

正就

石見守

初羊三

父正成家督又子石見守正家力七孫伊聖者同心也
出就引續以先子正續炮以初無在子細有長九
年蒙 伊聖氣田曾松平隱岐守正家力七孫伊聖者同心也
分掛川正越引續無在定務隱岐守正家力七孫伊聖者同心也
卯年書伊陳一節又月七日於伊聖大坂天王寺口就死仕

服部伊豆守

初長吉 又羊藏

○正重○

系圖云云

正辰

源右門

父正就討死仕初初少叔定細越中守養育清義仕

正容

源右門

父正辰為死仕初初容若年於勢別業名在定重越中守
合方上清以初初為長九

系圖云云
右代依門姓母より相傳通也

伊豆正重ヨリ七代目

服部正重

服部伊豆守

初長吉 又羊藏

○正重○

父正成送氏一内三子石見守正家力七孫伊聖者同心也
初初在仕初初長六久保石見守正家力七孫伊聖者同心也
防正善明以正成因防正家力七孫伊聖者同心也
子正成在仕 正成以付上知以正成送侍組仕仕初
中中又寛永十六己卯年丹後守正家力七孫伊聖者同心也
以有正成守正細越中守勢別業名在城一節在越以初初為長九

中ハ 一場あるに在る内再少花と改定するに無越の事ハ
伊豆と改定

江島元継ヨリ世代目
三輪源右衛門

三和源八郎
品某

奉仕 東照宮永禄十二年遠江國三宮迄ハ
市判物頂戴仕々今而仕仕

元継 彌左衛門

市判物無仕仕子細有ハ一人仕終明山川ハ無越居ハ大坂吉友
度市陣ハ是細越中身ハ五段ハ大坂吉友ハ陣仕仕有ハ
無仕仕 一各字ハ江島永友之和ハ吉友ハ父先祖源八郎ハ吉友
市判物ハ三輪ハ源八郎ハ吉友ハ是細越居ハ三輪ハ字ハ改定

元明 小左衛門

元和二年 台徳院横所幕下ハ在仕
元辰 權右門

父元継源八郎と姓源八郎ハ在仕

吉友ハ改定ヨリ世代目

牧野右衛門

成廣 牧野右衛門

冬列住人選 東照宮吉友ハ在仕ハ三輪ハ在仕ハ
市判物無仕仕子細有ハ一人仕終明山川ハ無越居ハ大坂吉友
度市陣ハ是細越中身ハ五段ハ大坂吉友ハ陣仕仕有ハ
無仕仕 一各字ハ江島永友之和ハ吉友ハ父先祖源八郎ハ吉友
市判物ハ三輪ハ源八郎ハ吉友ハ是細越居ハ三輪ハ字ハ改定

成政平島

備井家、母在少処、故方々被家、迄在仕于薩、為家、と云、和り、

菅沼信濃守

新上、以新三郎貞直

品定郷

定吉

左近

新上、改重、り、云、目、
管沼新上、云、目、

参列、設樂、為、沼、城、主、

父、家督、と、被、任、同、國、田、領、に、被、

定忠

大膳大夫

定勝

新七郎

田領之城主

三列、設樂、平井、墨、主、父、定、忠、中、領、し、内、三、百、畝、文、配、分、

今川、家、之、所、存、在、仕、清、康、公、言、文、配、と、云、下、於、是、被、戰、死、仕、

勝安

少大夫

母、親、君、之、所、女、被、任、清、康、公、是、被、進、給、と、云、下、今川、家、武、に、被、任、

仕、東、照、宮、設、樂、郡、内、百、畝、文、配、と、云、下、又、被、田、領、に、被、任、三、列、
牧、牛、に、被、任、與、年、位、男、一、家、に、被、任、在、仕、

勝重

以、重、

父、勝、安、と、云、一、家、平、家、に、被、任、在、仕、

政重

新、五、郎、門、

菅沼、大、膳、康、俊、同、姓、と、云、被、任、に、被、任、在、仕、康、俊、公、三、代、同、忠、勝、重、公、嗣、子、
家、引、給、と、云、下、久、保、加、賀、中、郡、に、被、任、在、仕、故、方々、被、任、在、仕、定、國、或、中、等、賢、
者、在、仕、仕、事、分、為、家、に、被、任、在、仕、

菅沼、忠、信、り、云、目、

松平、左、三、郎、

品親則

松平、備、中、守、一、郎、

正、

正、

忠、

三、列、長、次、に、被、任、在、仕、

時代、初、の、長、次、東、照、宮、迄、分、中、長、に、被、任、在、仕、

正綱 右衛門大夫 始新助正久

寛弘十一年丙午金吾左衛門少輔

正重 淡田布 父西次郎智由後三兄長兄之佐左衛門

親宅 淡藏 長兄之佐佐左衛門代官職止守部殿重忠 重忠 淡田布 父三兄佐佐左衛門代官職止守部殿重忠

親正 重忠為年長子家督之能代官職止守部殿重忠

忠佐 重忠與子 淡田布 後長兄

誠信將忠親卿之佐其兄之佐佐左衛門代官職止守部殿重忠

品集 俗名不知

物進良弘より六月 山本清士

内代官職止守部殿重忠之佐其兄之佐佐左衛門代官職止守部殿重忠

山本助之進 良弘

父西次郎智由後三兄長兄之佐左衛門 乃仕外官是國越中守部殿重忠之佐其兄之佐佐左衛門代官職止守部殿重忠

金吾左衛門少輔 平松金一助

平松九七郎 物徳辰

淡田布 父西次郎智由後三兄長兄之佐左衛門

德知 金次郎

東照宮御近衛役御近衛 天正十三年長久寺御深し時 小北山通一表法之官長子守部殿重忠之佐其兄之佐佐左衛門代官職止守部殿重忠 平松金一助 上意則於市言上自 所仕德順之佐其兄之佐佐左衛門代官職止守部殿重忠 父西次郎智由後三兄長兄之佐左衛門 父三兄佐佐左衛門代官職止守部殿重忠

德種

高長衛

德真

金在乃又九八郎金明郎共

父德知蒙 即勅氣以存聲聲

父德種出果母石三子三子好實

定備より振金の米と清原重信

角多信重信より其目

鉄木無之郎

品重綱

源平助

三より奉仕東邊宮中少人政初初之百石上下是路有下所隠所
より所代仕は所種分所有の難事納めく供所種界存恩牧野成春方存草人

牧野金明

成春

大猷院權所代進 所三式少人政初初之

鉄木用急所

重信

父重綱信房より出仕仕重信に上仕仕 大猷院權所より出仕仕
有重信より山に振勢仕仕天和五年より為家より初人

重信より忠光より其目

後藤柳外

後藤久右衛門

品忠一

武田家より仕甲分没為公存天正十年十一月五日 東邊宮より
治金甲より内より出仕仕重信に上仕仕 所重信より戴仕苗家所陳
より所代仕仕出西條より重信より忠光より其目

忠改

久太郎

父忠一病歿より重信より少子重信より出仕仕 所重信より戴仕苗家所陳
所重信より戴仕苗家所陳

○定冬○
第力

定寛一熟候外番身何又
常名此以迄尚家務要

源大夫 定隆子孫旁
定隆○ 松平信吉郎
宝永元甲午定寛家督元也遠く

定寛家督元也遠く

奥平常以乃

品貞之
奥平出好身
初監物

三子作之也

貞昌○
美作身位
初監物 初之常也
三子作之也

貞次
貞久八男 左衛門初喜八郎
三子名倉三信
貞高
左衛門初小常也
三子名倉三信

貞取
八郎左三 初左忠 左衛門進吉

松平信吉守定勝候分遣分勘川内番在古取所陳一員濃分四納
坂重松平子松平親助少将 忠徳宮内所初一者身名陳代時
百崎彦孫古坂吉右衛門 忠徳院様公作身別如納人
越前守百目一員忠徳院様公 忠徳宮内所 忠徳社十第内
長濱城在番身 信守子信隆 忠徳宮内所 忠徳社十第内
横濱子持乃一信

貞重○
三子名倉三信

宝永十壹年 三子名倉三信

右ノ元印家ノ如月ノ後數年家來書面一通出ルル可ク服中上

年号月

家來

文化元子年九月十日書若水年寺場田原村多新不山寺有
一因世年二月廿五日書一様与内自方以同前被一田内被田被集
右方之方より信書し一表向う書出さるる述を以て同ノ所
於書返對之

一因之月終る為内被田内被方同ノ表向方被出さるる
右方より信書被出さるる
右ノ存りし以て被出さるる

古松宗幸 記

服部家系

服部

家系圖 兼部按是ハ城邊ノ説也 各ノ家系ハ其ノ可見ナリ

○

今度家系ノ後再々ト作述ノ事得共ニ多ク

七ノ年ノ前書上仕ル者ハ其ノ時中ノ人又其ノ時中ノ人

ト仕合ハシテ上仕ル者ハ其ノ時中ノ人又其ノ時中ノ人

成得ハ其ノ時中ノ人又其ノ時中ノ人

其ノ時中ノ人又其ノ時中ノ人

雖仕事多ク其ノ時中ノ人

服部

石見守

羊三

服部

本領傳聞同ノ立出参列ハ能ハス

品正種

是迄數代奉仕 足利將軍家 正種 至参州ニ被 召呼奉仕

廣忠公ニ老後隱居仕候 追記 ○足利家ニ奉仕之節迄 万松院義

晴公御具足御鎗御刀御領古ノ内ニ品燒失御刀 伯耆國太田五 一腰

銘ニ傳來仕候参州ニ奉仕 廣忠公 東照宮隱居

後号海閑、因崎所裏に住居仕於同處、病死仕由但年月年齡墓
處不知冬別大樹寺且縁有之由申傳候
正成兄四人追加

服部市平 同市平後市郎右
保佐 保英

於参別高橋戰死 御旗本之子孫敬昌同平左保棟同三郎兵衛其等七保

英別家、最傳申候

其 源吉尾別蟹江に而戦死し由

其 勘十郎 苗字菊川共申其誤不相知 於兄上共鯉江戦死

其 久大夫 関ヶ原御陣迄相勤由

右三人子孫有無且死七年月年歿等不相知久左家分御旗本有之

由未承知候

服部石見守 若名半三半藏共書

正成 鬼半三藏

父三種家督相續被仰付御奉仕仕四能仕從 東照宮進、奉蒙

御厚恩仰加増等拜領知行八千石方三十騎伊賀者同心三百人支配被

仰付御先手申致炮鼓相勤罷仕後慶長之丙申年於東府病死仕候

但知行高一万石共申傳候得共 御利物致燒失儀致不分明御仕人

追加 天文十二壬寅年於参別國濟出生三三歳之時参別西郡宇上之城城主姓名不詳

夜討之節初而高名仕以此節夜討被 仰付伊賀ノ忍ノ者六七十人遣

忍入城内、而鯉波之聲上、申候處 東照宮之城近、御衆降指

サレ時之聲ヲ御合セ遊サレ候共暗正成廣間ノ様近参リ相明ヲ

并込候得、城主鎧ヲ提立合候、身正成王鎧ニテ午イタリ追込

廣間ノ前ニテ突倒直ニ首ヲ取申候右ノ以方、御盃頂戴仕

御者打蛇被下置其上 御扶、突セラレ、御鎧御秘藏之由

上意自御手拜領仕、以右御鏡處ニ而相御申、〇其後追別

仕由右御感状何毛燒失相傳不申也○或時 宗康公御軍談之時
六人ヲ被撰正成其一人ヲ御受大和君御鑑之上御羽織物力召上
將各甲由着御左右列座右御繪像物代ノ致所持ハ相傳之由正
成戦力之儀ハ事長ハ問文書仕ハ○知行最初ノ美不相知者拜領仕
相知不其後追一御加増被下置由知行所之儀建列布引山下杯上毛
申傳ハ同國ノサニ村サハ村ノ者共其頃誘代ニ召仕子孫ニ者于今相勤
ハ右村ノ知行所ニ有ヤト申傳ハ近ニ御座ハ天正之頃ハ同國長上郡
小龍村ノ邊知行所ト相見

天正三年時地頭服部義 用人青山源五郎
奉造立春本國東海道遠刈長上郡池村八事神社所
亥九月吉日神主洲見宗長正立杉浦忠喜正重

天正五年時地頭服部宗康 用人青山源五郎信次
奉造立春本國東海道遠刈長上郡池村八事神社所
戌九月二十日 神主 洲見宗長正立

右八王寺社内ニ納有之棟札之趣有二枚三通一御座ハ古八王子ニ三石三斗之
御朱印被下置ハ後御坐人由慶長ニ奉伊奈備前守身之形勢都

大久保十條 但此 御朱印元和四年燒失之由其後慶安元年十月廿四日
所奉下三石三斗貞享二年六月廿三日 御朱印三石三斗其後毛
神主相頼ト由ハト毛五十五石以下ハ御沙汰被上之 御朱印頂戴中他仕ハ由右神
主忠正子孫當時洲見宗長申上正成屋敷ニ候於東武尾御門ハ内 尾所
其後赤松御門ハ内 正徳頃進松申出御座 慶長元丙申年十一月廿日病死五
十五歳法名専祿院殿前右列安養西念大居士墓所由谷西念寺最初立祿
二登巳年刻町志水谷立三丁丁号安養院ノ死後以法名各事稱出念寺
安養寺上甲戌年依 台金移考ヲ四谷

左之三人追加
女子 姥中根大隅守共喜藏 但年古獨正重ニ嫁タル美家諸ニ相見不申人 右女姥外共喜藏
相知不申人 美家正重ト名共

服ア年卯 関ヶ原御陣之節奉仕有忠之由家譜ニ有之其後死亡年月子孫ノ
某 有無等不相知

右中根金田而姓
法名等不相知

正力

此背台命婦翁隨此身方一罷我人樣破何人年遠列掛
五子石被下置方亡騎伊費者同心戴百人福避何預引優
羅越少將軍勝公羅越方罷並其後子孫者所誌大坂有

以神作升相勤嚴在彼處子細有之廣長九甲辰年崇

平隱政守定勝云初成御教人由和程
元作出則遠則掛川

龍在定勝公御執肋柳蒙由甚好元和元年夏御

市於構別大坂天王寺に致戦死し追々○家督を第二

市陳之昂ハ園東ニ御供仕人ヨリニ申傳人左ニ御座人ナ

白川郡中寺村辺、御苦工柳渡、黒方丸黒舟、左之通。

後任主如弱速破地中求遠系捕身中如望六人荒城

川之嘉祐之
肉厚樣如即
錠刻之者

久遠人也
 孝長五年十一月十日
 右田原備前守居利

十高友 同於多意 同於多意 松竹 亦多意友

先祖ヨリ十八
代相續仕ヨシ
之外五人ノ子孫不相知由正統戰死之序乱軍ノ

不殘討死仕人時宜故墓所不詳人惟在了義院殿前石別福

居士空
空勝公御息女而歸入聘通院樣御側被召仕

與慮正執教中上
 召緣組之侯衆
 仰
 年
 子
 亥
 婚
 禮

大和君賜秋廣之雄刀此刀掛川之禪社工部申
申付未付不致人
杉尾男子三之生

殿
武部

女子 姦淫 年內 藏元 豆寶

感元祖

之第十一歲孫明如生至定例公學
御養育成長後賜五平

身京都信居寛永其巳卯年八月示永京都病死三十五歳其

妙心寺

同源考

正統 父正就討死... 傳通源殿... 中御信...

父正就討死

父正就討死... 御勅免... 戰功...

戰功...

其後... 召賜... 方...

其後...

召賜... 方...

召賜...

方...

方...

死... 進加...

死...

進加... 父正就討死...

進加...

父正就討死... 一合...

一合...

國妙寺... 進加...

進加...

父正就討死... 美作...

美作...

父正就討死... 同源考...

同源考...

父正就討死... 正容...

正容...

父正就討死... 進加...

進加...

山日...

山日...

如...

如...

了...

了...

保元...

保元...

父正...

父正...

召...

召...

實...

實...

順...

順...

正...

正...

同...

同...

正...

正...

同...

同...

正...

正...

同...

文化七庚午年十一月

服部丹後

服部左大正重
右伊豆守

台徳院持漸上姓相動... 被召取申... 名呼取申...

服部左大正士
同主税正明
同長兵衛正

服部長兵衛正
半藏
同半藏

半藏... 度由再三... 同是排共... 相改... 人由... 孫被仰...

服部如藤次郎
服部助五郎

私家半藏家嫡度相別... 外曾...

八石見... 人上

服部大膳

服部半丰殿家譜後書

御當家、御奉公仕候... 柴而ヨリ下... 服部半丰種生國伊賀ヨリ罷出三列

正成相續御奉公申上候... 初テ三列... 城主ヲ自身

討取入御年中候... 以後救度瓦切ヲ被獲御賞養鬼半主ト

御預候尤後於江戸病死仕候則倅名見申就家督被仰身
与力同心真支配仕候々申上候不調迄故掛川勢居仕大坂

夏之御子孫御代之種討死仕候費申俸源奉前テ御坐候

御存知被成候通覽女三年江府に罷出御老中迄申上日光御
門主御取持而上野御帳留り首尾能相詰候所同二月廿日願病
臥死太仕候祖父源左門若輩罷在早速御訴詔を不仕一生終
り申候へ様曾祖父より之不幸不及是非奉存候松共心底御察
被成可候先年源左門願候節之訴詔之扣入御覽候
服部源左門訴詔之覺

一某父石見知行高五千石与力七騎伊買者同心二百人被控御預罷在候
家御不審子細者慶長九年石見屋鋪類焼并同心共千傳備候所
同心之内邪儀之者之公儀之内安指上候所被懸御詮儀石見分
被仰付使黨之者不殘被下置候間存分可仕者被仰出則張本

之者七人成敗仕候之砌一家之内病人有之罷越夜更罷帰候節於途
中石見家來何哉覽行掛り突倒其上雜言申力ヲ拔向候間無是
非切殺申候翌日於殿中及御沙汰御老中御尋付石之趣具申
上候所被聞召分狼藉者成敗仕候股右思召候儀最前同心目安
若上石見理分被仰付候共未ク御禮申共候所一家之内而老我
儘罷出候儀不届被思召候男候間松平隱岐守被成御預
候由被仰出遠刈掛川罷越候其後大坂御陳付励軍功不調
汰之御侘御訴詔仕度所存テ御先手松平上総公殿御陳所罷越
御一戰遲候付某御先手可仕旨申置棄出討死仕子孫之不調汰之
御侘ヲ為可仕一命ヲ果候由申置故達上聞度奉願候儀御坐候

以上 寛文三年 卯 正月日 服部源右内云展

右類焼仕候屋鋪者、勘町一風御門之内、松平出羽守殿屋鋪之半、
美り申候夫故、半三御門、申候半三、成生涯之内、御奉公仕頭、功候
儀書付進上仕度候、共先此度迄、延引仕候重而御覽可被成候、
進上可仕候拜領之御再拜御感状等、並見討死之節、御陳場、紛
失仕候且又午前所持仕候十六士之圖之書付別名書付、御目候

服部家図系 ○服部半三正種 生國伊賀 三州廣忠公使 鬼半三正成

或五右見守三就、室、松平
隱岐守室勝、一、松尾
寛永十三年八月廿日
幸山領松院、木、譽利
勘言大信、安、松、照、源、寺

右服部家譜者

 三輪氏之家藏、奥川白河馬、時上直

石見守三就 源左門云展 丹後
伊豆守正重 左太夫正吉 半養

一

礼部家入第并出第有一家
作内用也初为家四家十二家

